

豊南小学校・校長室だより (家庭数配布)

令和3年(2021年)7月2日

発行 中森啓之

「謙虚・謙遜」「出る杭は打たれる」と「自己肯定感」

私たち教員どうして子どもについての話をいろいろとする中で、どうしても「気になる子」が出てきます。なぜか前向きな気持ちを持ってない、また、友だちどうしの関係がなかなかうまくいかない、などです。原因を探っていくと、多くの場合に共通するのが「自己肯定感を持っていないのでは？」です。「自己肯定感」とは、自分をどのくらい肯定的に思っているかなど、自分の存在そのものに対する判断や評価のことで、当然のことながら、自己肯定感が低いと、あきらめやすくなったり、無力感や絶望感を感じやすくなったりします。

様々な調査によると、日本人の自己肯定感は非常に低いと言われているようです。原因のひとつが謙虚や謙遜という言葉に代表される日本人の国民性です。謙虚さや謙遜することが常に求められるため、どうしても自分に自信を持つことが難しくなります。もうひとつが「出る杭は打たれる」です。日本では古くからいわゆる「ムラ」で共同生活を営んできたため、自分を押しさえ、みんなと同じこと、揃えることが美徳とされてきました。良い悪いは別にして、時に目立ったことをすると、それこそ「出る杭は打たれる」で、ひどい場合には村八分にされ、その存在を否定されます。つまり、自分のやりたいことよりも、周りの様子を伺ってばかりの生き方になってしまいます。このように、日本には、高い自己肯定感がなかなか養われない要因があります。

では反対に、自己肯定感が高まるとどのようなメリットが生まれてくるのでしょうか。次の4つが挙げられます。

- ①新しいことにチャレンジできる。
- ②円滑な人間関係を築きやすい。
- ③理想的な自分に近づける。
- ④幸福感が増す。

このように、いいことばかりです。

「じゃあ、自己肯定感を高めるためにはどうすればいいの？」と聞きたくなりますね。この紙面は、子どもをどうすればより良く成長させることができるかを考える場ですので、こどもに目を

向けたいと思います。例えば、自分の子どもがテストで85点をとったとします。平均点は90点です。どんな声かけがあるでしょう。まず、良くない例を挙げます。「なぜいつも平均点以下しかとれんのか。お前はアホか。お前なんか産まんかったらよかった。」こう言われた子どもの腹の中は、おそらくこうです。「親の頭が悪いのが原因や。ぼくのせいじゃない。」これ、最悪の親子関係です。では、別の声かけは？「(平均点のことは口に出さず)よく85点もとれたね。前よりもずいぶん上がったね。あともう少し頑張れば100点とれるよ。」ですね。どの子どもも、わざと100点を逃しているわけではありません。100点をとろうと思っているけど、とれないのです。まずは、100点をとろうとしている気持ちを認めてあげることが大切です。この1回はほんの些細なことかもしれませんが、でも、日々の些細なことの積み重ねが、子どもの自己肯定感の高低に大きく影響します。前述したように、日本では自己肯定感がなかなか育ちにくい環境があります。その分、大人の声かけがとても大切になってくるのです。

